

友の靈に手向くべき詩と文

江原白線

空蟬の中に吾は生きじ

自然の影にぞ吾は宿る

聲なきみ空に月し見れば

曇らぬ鏡に吾たまうつる

こ、君よ思へ!! 此れは君が其生前かつて人静けき畔りで、口吟んだ愛人バイロンの詩だ。

秋の今宵更けていとも深い、往しの人の歌つた様に『三五夜中新月色、三千里外故人心』の心も徐ろに偲ばれる。嗟呼詩人をして泣かしむる秋の哀れは、亦亡き友を追想するに足る多くの時間を持つてゐる。斯ふした愁ひに讀まれる自然の調べと、偲ばねばならぬ亡き友を持つた僕の今の痛ましきとは、氣に僕をして眞調に泣かしむるに價する長恨の響と變つて行く様に思ふ。騒音に絶へた此の静寂な環境!! 纏綿として碎けて行く心の緒!! 君ならでは僕ならでは分たぬ思の數々!! 泌々と浸つて來る君の生前の面影!! あゝ何の奇しぞ、君の病中せめても其の快癒を祈つた僕の心の殊勝さも、今となりては薄く消

へた君の運命の裏にそも何の私語を續けてゐるかし
ら!! 君の死を見て無理に涙の種を増したくない、け
れども僕には哲人の見た様に『夢なき眠りの如くん
ば死は生の夫れよりも安らけし』と斯ふ冷靜になる
ことの出来ない人間美の誇りは、更らに深淵に刻み
入つて一層強く此の感を求めたいと思つてゐる此の
友の心を諒としたまへ。古人謂へることあり『亡く
てぞ物は戀しかるべき』と、嗟呼。

知らず僕は涙を抑へて

氣に浮雲の生命なれ

あゝ西山の夕日かや

廣き自然に永らへて

名こそ殘さぬ誰人も

花をまたなん果敢なさよ

千草にまろぶ春の野や

月の眺めの秋の宵

集ふ陸みの享樂に

誰か浮世とは云ひそめし

兎烏勿々の人の世に

生死愛別の理りの

織りなせし神の恨みなる

思ふ自然に生死なく

競ふ文化に有待なしと

語る佛者の心哉

開示悟入の金識に

覺むべきが眞の道なるか。

と次から次へと綴つて來るうちに、僕の死に對する想いは其の深みの度を増して來る。佛陀は且つて『最高尊貴の果報者は誰!!』と大きな謎を垂れて、六合の悲哀を吹き渡す双林の下に示寂されたことを記憶する。ヒマラヤの麓ガンガー河畔の流れに沿ふた一寒村に花の女の死に面して生前最も彼を愛した、一青年は彼女の葬りの席で『嬢は死すと云ふとも生前の吾の戀は變らじ死後たりとも吾の戀は生前の夫に三倍す』と誓ひしと。あゝ永久は尊い、そして亦永遠を誓ふ切情を見て其の死の刹那の感慨の程も察するに餘りがある。父はなく母は亦渚さの捨小舟の寥しさを知る小さい孤兒が只人の縁しを求めて、心も身も全部を人の憐情に待つことによつて、満足する様に、人間が其の理想や希求を果てもなき永遠へ投げることによつて、安んずる様に、人間本姿の投影こそ眞の生命の使命であり得る。と斯ふ理會して

來た時に僕は、未だかつて廢せざるの生命の永久に參ずることが出來やう。更らに亡き友への靈の手下けば、只日々夜の友の心の湧く時に甦る。君自身の肉の破綻は、夫の如くは有機的には永へに還らないし、靈の呼吸は刹那に君を知れる多くの人の靈台に宿つて生命を續ける。そして大きな伸轉の手を延ばして窮りなく流れて行く!! あゝ呼吸して行く。友の追憶が永久ならば、矢張り君の靈は永久だ。若し祈りの中に僕が籠の鳥であるならば、君は青く澄み切つた天空に自由に移ることを妨げられない、翼を擴げて行く、鳥かも知れぬ。そして時折永遠の多くの魂は、其まばたきを初めて、岐路に迷ふ幾多な小さい人間に光りとなつて甦つてくれる。斯ふ思ふと生は死を友にし死は亦更らに生を呼ぶべき、不可分の關係に存することを思ふ。オー懐かしい死の友!! 永遠に至る、來るべき力の基調よ!! 其によつて人はより偉い薫化を與へられる。死者の魂の薫りが無制限に止まらないならば人生すべての動力は不斷に廻つてゐる。死を考ふるは全く人生の前面を明瞭に導く唯一の方規だ、ノルムだ。力だ、愛だ、此に情感は、意志し、躍動するところに、人生奥底の懨寂は

拂はれる。オー美はしき死の靈よ!! 山海幾百里を離れた西南の暖國、其處は君の里であり、生前君を知れる多くの人は集つてゐるそして君の墳墓を見守つてゐてくれるのだ。斯ふした人々によつて手向けられる、新らしい香花は、そは君の靈の永遠をつなぐ、何よりの贈り物でなくて何であらう。終りに君の靈を祈りて又歐はん。

白砂青松の玖島瀉は

親しき君の靈を抱き

千枝に榮へ行く緑り葉は

亡き君の名を予傳ふらめ

幸と榮へに眠る君か

手向けに薫る君のおくつきか

思へ自然のめぐみ予

泣けよ永生の理りよ

落ちて朽ち行く秋の葉に

縁したづぬる由よりも

君を思ひ君の靈祈る

身のなさけにやいと深しは

人の心の殊勝かや

棲神閣に詣で

照

月

聖誕茲に七百年
善惡諸人共どもに
靈に生きるの紀念ぞよ
津々浦々の道の友
功積み徳を累ねんと
吾も人もと誘ひつゝ
靈跡めぐりて參拜し
身延の山にいそぎ行く
いたむ足身も厭はせて
勇氣はげます尊さよ
祖師の弘宣は末法に
久遠の慈悲と流れ來て
闇路を照すその効は
至らぬ所無かりける
毒氣になやめる人々は
闇に闇にと迷ひ入り
出づることなきあはれさよ
十界皆成の法華經は